= 夢・現実の狭間で =

1月より業種別労使懇談会が逐次開催されている。外部会議等の対応もあり、すべてに出席は適わないが、足もと、第71回鋳鍛鋼労使懇、第26回建材労使懇、第94回特殊鋼労使懇、第41回非鉄総合労使懇に出席させていただいた。開催回数で分かるように歴史ある労使意見交換の場である。

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の発現以来、世界の経済・社会は揺れ動き、ロシアや中国をはじめとする地政学的課題を抱える中で、安保理に象徴される国連の機能不全、国際秩序の危機と言われ、その手立てもないまま時は過ぎている。

これらは世界のサプライチェーンを混乱させ、原材料や資源・エネルギー、電力コストの上昇につながり企業物価は高騰、そして生活必需品の値上がりは生活の安心・安定をも脅かしている。

ものづくり産業においては、こうした影響に加え、デジタルトランスフォーメーション(DX)、 脱炭素社会を掲げたカーボンニュートラル(C/N)への対応など、これまでとは次元の違う課題を抱えている。なかでも研究・開発や実装に向けた費用など膨大な投資が必要となるC/Nは、 産業・企業の生き残りをかけた挑戦であり、私たち働く者の雇用に関わる課題でもある。

また、各企業は、ものづくりで培ってきた技術・技能の伝承という旧来からの課題に加え、デジタル人材等を含めた新たな人財の確保・定着・育成にも頭を悩ませている。

そんなこんなを題材に、3年ぶりの対面形式で各社の社長をはじめ経営トップの皆さんと意見 交換をさせていただいた。感染防止の措置を施しながらの懇親の場では、ものづくり産業や労使 課題等について、さらには、安全衛生対策、また産業政策等の課題は組織内議員村田きょうこ参 議院議員と連携し政治のプロセスを通じて…などなど。数多の課題を抱えてはいるが、産業・企 業や労働運動のこれからなど、明日に向けた話にも花を咲かせたところである。

労使懇談会を終えての帰り道、ふと思い出した。かぼす会(大分出身の在京の飲み仲間集団)の大先輩、元連合事務局長の故草野忠義氏が残された言葉、「労働運動は理想を追い求めるものである。常に夢とロマンを持たなければならない。が、その一方で現実を見据えることも忘れてはならない。この二つは一見矛盾するようであるが、このバランスがなければ国民も組合員も同意は得られない。」

混とんとした経済・社会情勢、足もとの産業・企業実態、生活の安心・安定に向け、並べればきりがない課題の数々。それに追われている今、俺たちは笑顔で夢を語っているのだろうかと。職場で、家庭で、笑顔で明日を語り合える姿を追求し続けることがなければ、労働運動の求心力、行く末やいかに…。

AP23春季取り組みを迎える。「魅力ある労働条件づくり」と「産業・企業の競争力強化」の好循環理念のもとで、働くものすべての幸せ追求、働く仲間の笑顔をつくるための取り組みである。物価高への対応のみならず、ものづくり産業・企業の明日を創る「人」への継続的な投資は好循環を回し続ける鍵。

人への投資・賃金改善、その原資を確保していくためには、サプライチェーン全体で生みだした付加価値の適正配分がいる。価格転嫁ができる環境を作り、私たち労働組合の立場からも積極的に取り組んでいかなければならない。

今日から2月。皆さんの中には、もう予約されている方もいるかもしれない、節分(2月3日の金曜日)の恵方巻。今年の恵方は南南東。鬼滅の刃に出てくるカスガイガラスが叫ぶ「炭治郎!善逸!南南東!」。

みんなの笑顔をつくるため、夢を頭の隅に置き、現実を見据え、鬼 (好循環を阻む多くの難題) 退治に挑んでいきますか。

> ご安全に 2023年2月1日 日本基幹産業労働組合連合会 中央執行委員長 神田 健一